カンボジア通信１号（平成１９年７月）

オッパニハー！

尾道市立土堂小学校教諭　森下理奈

１．　はじめに

みなさん，こんにちは。私はこの度，“ 青年海外協力隊 ” としてカンボジアの小学校教員養成校で活動する機会を頂きました。図工・音楽・体育を中心に現地の先生と一緒に活動します。この通信では，これからの活動の様子とともに，カンボジアで暮らす中で私が感じたことを綴っていきたいと思います。

通信のタイトルは「オッパニハー！」としました。これは，英語では「ノー　プロブレム」，「大丈夫，問題ない」という意味です。派遣前訓練で出会ったクメール語の先生が，いつもいつも言い続けてくれた言葉です。どんなに不安でも，うまくいかなくて悩んでいても，「オッパニハー！」という先生の優しい声を聞くと，本当に安心できました。明るい，前向きな気持ちになれました。

「だいじょうぶだよ。」子どもたちに対して，そして自分に対してもそう言える自分でいたいなあ，という気持ちをこめて，タイトルは「オッパニハー！」。はじまりです！

２．　派遣前訓練で学んだこと

↑クメール語を１日に５時間，その他に「異文化理解」や「国際協力」「日本の近・現代史」等について学びました。

学生気分に戻って，毎日とても楽しく勉強することができました。

活動に先立って２か月間，福島県で訓練を受けました。カンボジアでは日本語はもちろん，英語もあまり通じないそうなので，現地で用いるクメール語を勉強しました。

（１）　学ぶ立場になって

クメール語の先生から２か月間教わる経験をして，改めて教師としての自分の姿勢を考えさせられました。クメール語の先生は２か月間一度も怒らず，いつも穏やかで質問しやすい雰囲気を作り，分からないことがあると私が納得するまで何度でも教えてくださいました。このようなすばらしい先生に出会えたことは，私にとって，とても貴重な経験となりました。

その他にも次のようなことを「実感」として感じることができました。

＊〇をつけてもらったり，褒めてもらったりすると嬉しいこと。
＊できた瞬間に，先生に一緒に喜んでもらうと嬉しいこと。
＊自分を表現するのは楽しいこと。
＊学んだこと（文型など）を用いて自分が言いたいことを表現し，それが正しいと認められたときに“ 分かった ”という状態になること。
＊教室の学習掲示物は学習の手がかりになること。
＊音読や短文作り・視写・辞書引きは言葉の学習に意義深いこと。
＊小テストや宿題は学習内容の定着に意味があるが，適度な難易度でないと苦痛になること…。
＊テストはその後の学習に生かされて初めて意味を持つということ。

そして，
＊できること，分かることが嬉しいこと。
＊先生への信頼が学習意欲につながること。

（2）少し不便な生活をして

訓練所では，画用紙や色紙がない中で，包装紙や空き箱を使っていろいろな物を作りました。今ある物で作りたい物を作る喜びを，久しぶりに味わいました。そういえば，子どもの頃こういった活動が楽しくて仕方がなかったことを思い出します。物があふれんばかりにあって“自分の工夫の余地がない”ことは人間にとって物足りなく，残念なことだなぁと思います。少し不便な生活をすることで，想像し創造する楽しさ，アイデアがひらめいたときのわくわく感を思い出すことができました。現代の子どもたちにも味わって欲しい感覚です。

（3）新しい組織の中で

訓練所では約 180 人が生活する上で細かい規則はなく，困ったことは班ミーティングに出し，それをもとに班長会で話し合ってルールを決めていくというやり方でした。管理・監視されているという感じは全くなく，お互いが生活しやすいように組織を活用しよう，という考え方のように感じ，民主的な運営は気持ちよかったです。スタッフは訓練生を「信頼」し，訓練生も「自発的」に行動していました。本当にすがすがしい組織，すがすがしい生活でした。

この訓練で最も強く感じたことは，「信頼」された関係の中で「自発的に」行動するとき，人は素直になれ，最大限のエネルギーを発揮できるのではないか，ということです。自由になったときの人間はものすごいエネルギーを発揮できることを実感しました。教育の現場もこうありたいものだと思いました。

３．　カンボジアに来て感じたこと

＊主な公共交通手段は，モトドップ（バイクタクシー）です。非常に危険なので，私も乗るのが怖いのですが，市内にはバスがなく，タクシーもあまりないので仕方なく乗っています…。

最も身の危険を感じたのは，慣れない交通事情です。信号も横断歩道も少なく，交差点ではそれぞれが何となく危険を避けながら進むので危険極まりない状態です。カンボジアではモト（バイク）が多いのですが，ヘルメットをかぶっている人は少なく，４人乗りも当たり前。逆走もあれば，信号無視もある。「交通ルール」や「交通マナー」の概念がないように感じます。

そして「人」でなく「車」優先社会。人が道路を横断したいときは，車やモトが好き勝手に進む中をぬって，慎重に横断しなければなりません。

ちなみに，カンボジアではモトに乗るのに免許はなく，子どもでも乗れます。車の運転資格は１８歳以上で一応教習所もありますが，教習所に行かず無免許の人も多いそうです。

なぜ，そうなのか。

皆さまもお気づきのように，交通事情一つとっても「教育」「法」「経済」「インフラ整備」等，多くの課題が絡み合っています。

これから２年間，いろいろな文化の違いに戸惑うと思いますが，「なぜ，そうなのか。」という視点を忘れず，カンボジアの文化を理解していきたいと思います。